

家庭生活における夫妻の協力—1980年東京都勤労者夫妻の生活時間調査から—(オ3報)

昭和女大短大の天野寛子 森ます美 都立五川短大 伊藤セツ 大竹美登利

目的 生活に関する夫妻の協力は、生活全体にわたるものであるという前提があるだけで、その協力の内容については明確にされてこなかった。本報では、夫妻の協力とは何か、夫妻の協力の時間的ならわれ方を明確にすることを目的とする。

方法 家庭の機能を定義の労働力の再生産とヒラシの場合、理論的に導き出される下記の7つの協力(①経済的協力②互いの労働力を可能とすべく協力③子どもの養育における世話的協力④子供の生活文化の継承に関する協力⑤問題を社会的に解決していく活動を支えよう協力⑥精神的・人格的能力を高めよう協力⑦両親の世話における協力)について、1980年東京都勤労者夫妻の生活時間調査より、妻の勤務形態別、ライフステージ別に行働、場所、同席者のデータを分析した。調査方法はオ1報の通り。

結果 人間の全面的な発達をその基本理念とする家庭生活における7つの協力はいずれも家庭生活に必須のものではあるが、時間量として見ると①の協力、③の協力においては夫妻が経済的能力をもち協力できる共働き型と生計を維持するために性別分業を有る型でしか協力の阻めない役割分担型があるが、いずれにしても最低の必要をみた水準としての協力であり、②の協力については妻の転の有無で決定的な差があるが、その夫妻が自らの生活構造をかえる状態ではなく、④⑤⑥の協力に関しては身しい協力が行なわれていない。⑦の協力に関しても検討した。

(図参照)

夫妻が子どもと過ごす時間、平日
ステージ別

